

俳句の会「芦火」

☆柑蘆同人誌「芦火」第708号（二月号）表紙

- ・春の季語：「早春・春浅し」（そうしゅん・はるあさし）（初春・時候）
- ・来月号（三月号）の兼題です。



写真は、春の季語「菫の臺（ふきのとう）」ですが、兼題の「早春・春浅し」のうち、「早春」は立春後2月いっぱいくらいを言います。暦の上では春ではあるものの寒さの厳しい時季です。しかし、川の流れや山々の様子などに春の気配、息吹を見出す頃です。

「春浅し」は「早春」よりも主観の入った季語です。

この時季には、暖かいところでは梅が咲き、目白などが飛び交っていますが、東北の日本海側などでは厚い雪に覆われているところがありますが、雪の中から菫の臺を見つけることもあります。

季語「早春・春浅し」を詠んだ有名俳人の句として以下のようなものがあります。

- ・何かある早春の水を覗きけり／高橋淡路女
- ・掃除機を掛けつつ歌ふ早春賦／美濃部治子
- ・早春の心が先にゆく能登路／野田ゆたか
- ・早春の飛鳥陽石蒼古たり／金子兜太
- ・早春や遠故郷のすみれ色／村越化石
- ・早春の日のとろとろと水瀬かな／飯田蛇笏

- ・白き皿に絵の具を溶けば春浅し／夏目漱石
- ・浅春の火鉢集めし一間かな／前田普羅
- ・美しき人を見かけぬ春浅き／日野草城
- ・春浅し止まり木と呼ぶバーの椅子／戸板康二
- ・春浅し引き戸重たき母の家／小川濤美子
- ・春浅し空また月をそだてそめ／久保田万太郎

☆前月出句の中の高得点句（5点以上）

- ・707号に出句された16名の112句のなかから互選で高得点を獲得した句です。
- ・包丁のほどよき重さ鱈捌く／史浩 10点
- ・風紋のうねる砂丘や冬の海／緑汀 9点
- ・冬鳥の埒となれる古墳跡／碧亥 7点
- ・月凍てるコンビナートのパイプ群／緑汀 6点
- ・北国へ向かふ列車や冬銀河／温州 5点
- ・古民家や庭石添いに石蓐の花／善富 5点
- ・熱爛に口尖らせる無精髭／碧亥 5点

* 4点句（惜しい！もう少しで5点）は割愛です。

<俳句の会「芦火」概要>

- ・会員は柑芦会会員
- ・現在の会員は大学3期卒から25期卒の18名
- ・昭和38年（1963年）結成 約60年の歴史
- ・会員の作句は通信俳句誌「柑蘆同人誌・芦火」に掲載され毎月各人に配付
- ・創刊以降毎月発刊。令和4年（2022年）6月に第700号発刊。
- ・50号ごとに句誌を発刊。令和4年5月に「芦火第14号句集」発刊
- ・創刊時からの延べ会員数、72名（高商32名、高商教授1名、大学39名）

<編集者・コンタクト先および会費>

- ・編集者：穂永 千秋（大学17期）
メルアド：suishin2010@dream.ocn.ne.jp／携帯：090-9887-2513
- ・その他のコンタクト先：
 - ・山下 勝（大学14期・前編集者）
メルアド：yama723@nifty.com／携帯：090-1349-6727
 - ・平林 義康（大学20期）
メルアド：hirabayashi9497@yahoo.co.jp／携帯：090-8525-7293
- ・会費：年会費1万2千円

以上

（文責：平林 温州）